

地域交流活動報告書

平成23・24年度

地域社会の一員として

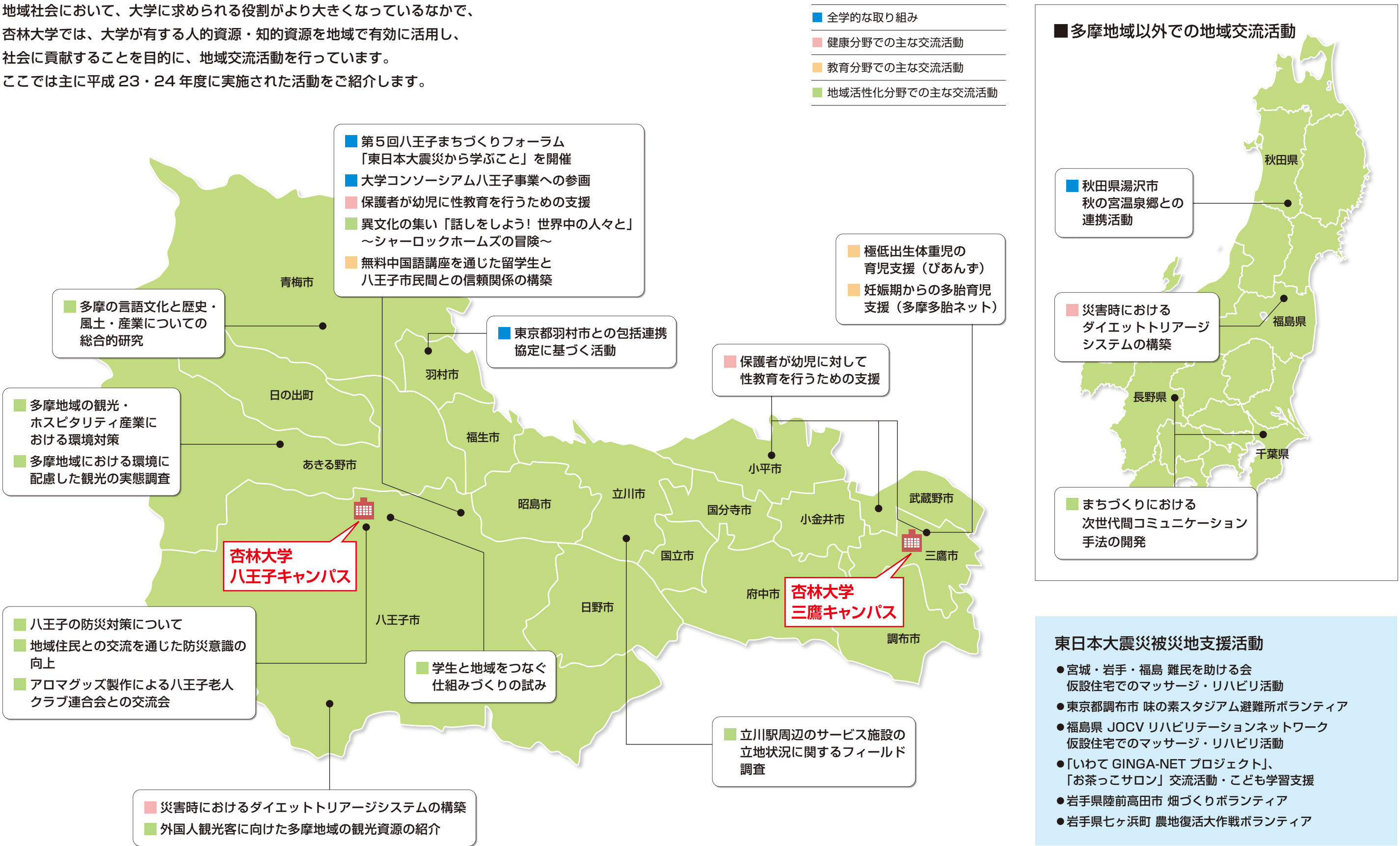
杏林大学の地域交流活動を紹介します。



杏林大学

杏林大学は、健康・教育・地域活性化などをテーマに、多摩地域を中心として地域交流活動を行っています。

地域社会において、大学に求められる役割がより大きくなっているなかで、杏林大学では、大学が有する人的資源・知的資源を地域で有効に活用し、社会に貢献することを目的に、地域交流活動を行っています。
ここでは主に平成 23・24 年度に実施された活動をご紹介します。



地域と大学

学長
跡見 裕



地域の皆様には日頃から一方ならぬご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

私どもは、大学は地域との連携を深めてこそ、その存在意義が増すものと考えております。大学には、なによりも多様な教育的資源があります。様々の専門分野の教員、図書館機能や語学サロンなどです。これを活用し、地域における知の拠点として発展するのが本学の重要な任務でもあります。特に『地域交流活動支援事業』は学内からの公募で選ばれたもので、大学として積極的に支援をしています。対外的には、本学は三鷹市、八王子市、武蔵野市、羽村市などと従来より様々な交流活動を続けてまいりました。これらをさらに発展・強化していくつもりです。

この地域交流活動報告書は、最近2年間に本学が携わってきた様々な活動のうち、『地域交流活動支援事業』に採択された取り組みを中心にまとめたものです。この小冊子をお読みいただき、ぜひご意見をお寄せください。

杏林大学の地域交流に対するご厚情に感謝するとともに、これからのご指導ご助言をお願い申し上げます。

「健康」「生涯学習」「地域活性化」
さらに地域と強く結びついた
学びの場の構築を目指します。

地域交流推進室 室長
古本 泰之



少子超高齢化・グローバル化など急速かつ不断の状況変化に地域社会が直面している現在、その地域に関わりを持つ大学が果たす役割には、これまで以上に踏み込んだ内容が求められています。文部科学省が近年示している「大学のCenter of Community機能」という概念を持ち出すまでもなく、地域に対して大学がより真剣に向き合わなければならない時代を迎えていると言えます。

杏林大学では、1970年の創立以来、医学部・保健学部による「健康」を軸とした教育研究が積み重ねられてきました。また、総合政策学部・外国語学部の人文社会科学系学部においても、主にキャンパス所在地の東京都八王子市を中心として多様な活動を行ってきました。本学では、それらの実績を元に、2006年より地域交流委員会・地域交流課、2012年より地域交流推進室を新たに発足させることで、学内の多様なリソースと地域社会のニーズとをマッチングさせる窓口を一元化し、「健康」「生涯学習」「地域活性化」を中心的テーマに、さらに地域と強く結びついた「学びの場」の構築を目指しております。この報告書はそのような取り組みの一端をお知らせするものとなっています。

地域交流推進室では、この「学びの場」を在学生だけに開かれている空間としてではなく、地域の皆さま方と本学の教職員・在学生が交流しながら「学び合う」空間ととらえており、地域と本学との協働でその場を作り上げていきたいと考えております。ぜひ気軽にお声がけいただければ幸いです。

目 次

プロローグ	P2
ごあいさつ	P4

全学的な取り組み	第5回八王子まちづくりフォーラム 「東日本大震災から学ぶこと」を開催 P7 大学コンソーシアム八王子事業への参画 P8 東京都羽村市との包括連携協定に基づく活動 P9 秋田県湯沢市秋の宮温泉郷との連携活動 P10
健康分野での 主な交流活動	災害時におけるダイエットトリアージシステムの構築 P11 保護者が幼児に対して性教育を行うための支援 P12 その他の健康分野での交流活動 P13
教育分野での 主な交流活動	極低出生体重児の育児支援（ぴあんず） P14 妊娠期からの多胎育児支援（多摩多胎ネット） P15 無料中国語講座を通じた留学生と八王子市民間との 信頼関係の構築 P16 その他の教育分野での交流活動 P17
地域活性化分野での 主な交流活動	多摩地域の観光・ホスピタリティ産業における環境対策 P18 外国人観光客に向けた多摩地域の観光資源の紹介 P19 多摩地域における環境に配慮した観光の実態調査 P20 学生と地域をつなぐ仕組みづくりの試み P21 八王子の防災対策について P22 地域住民との交流を通じた防災意識の向上 P23 アロマグッズ製作による八王子老人クラブ連合会との交流会 P24 立川駅周辺のサービス施設の立地状況に関するフィールド調査 P25 多摩の言語文化と歴史・風土・産業についての総合的研究 P26 まちづくりにおける次世代間コミュニケーション手法の開発 P27 異文化の集い「話をしよう！世界中の人々と」 ～シャーロックホームズの冒険～ P28 その他の地域活性化分野での交流活動 P29
	東日本大震災被災地支援・その他の交流活動 P30 公開講座 P31

全学的な取り組み

第5回 八王子まちづくりフォーラム 「東日本大震災から学ぶこと」を開催

災害対策をテーマに全学で参加

平成23年11月5日（土）、八王子市学園都市センターにおいて、杏林大学と八王子学園都市大学いちょう塾共催の「八王子まちづくりフォーラム」を開催致しました。八王子市民、市職員、本学教職員を概ねの対象とし、「東日本大震災から学ぶこと ― 震災に強いまちにするために―」をテーマに、本学全学参加型の非常に内容の濃いフォーラムを執り行うことができました。

まず開会に先立ち松田剛明副理事長が、「このフォーラムを通じて今後起こりうる災害への対応策について八王子市の皆様と討議できる良い機会にしたいと思います」と挨拶し、黒須隆一八王子市長からは「毎年八王子市のまちづくりに貢献いただける杏林大学には感謝をしております」とお褒めの言葉をいただきました。

支援者からの報告として本学大学院生の伊藤尚子さん、脳神経外科の李政勲医師、救急救命学科在学の宮西拳人さんより、メディアでは知ることが出来なかつ



学生が受付を担当



手話通訳で内容を説明

た報告をいただき、天災の恐ろしさを改めて共有しました。

二部では、総合政策学部小澤貴史さんから、震災に関するアンケートの分析報告があり、それを元に八王子市の加藤雅己防災課長、高橋清一宮下町会長より、八王子市、宮下町それぞれの防災活動等についてのご報告をいただき、総合政策学部の岩隈道洋准教授からは個人情報保護法の観点から、外国語学部坂本ロビン教授からは外国人の危機管理の観点から、保健学部長谷川めぐみ准教授より管理栄養士の観点から更に専門的な話を聞くことができました。

上記登壇者に加えて座長に総合政策学部野山修教授を、また本学大学院生の室田力さんを新たに迎えてパネルディスカッションも行い、閉会の挨拶では松田和晃総合政策学部長が「後世に繋がる対応、システムの構築後は時代に合わせた見直しの連続が大切です」と述べ、フォーラムを無事終了致しました。

本フォーラムでは健常者はもちろん、耳の不自由な方々の参加も踏まえ、3名の手話通訳者にもご協力いただきました。ほとんどの登壇者が口にした言葉「自助・共助・公助」がとても印象的なフォーラムでした。（所属はいずれも平成23年当時）



パネルディスカッション

大学コンソーシアム八王子 事業への参画

地域活性化と被災地支援を後押し

大学コンソーシアム八王子は、大学・市民・経済団体・企業・行政等が主体性を持って連携・協働し、地域の活性化、外国人留学生の支援、情報の発信、調査研究、交流促進等に取り組むことにより魅力ある学園都市の形成に向けた中心的な役割を担うことを目的として設立されています。加盟校は八王子市を中心に所在する23の大学・短期大学・高等専門学校であり、平成23～24年度において、本学もさまざまな事業に継続参画しました。

主に大学等連携事業のFD・SD事業や単位互換制度の促進、学生活動支援事業の八王子地域合同学園祭「学生天国」やフェアトレード普及活動支援「フェアトレードカフェMARCHE」への参加、産学公連携事業「学生発表会」への参加、生涯学習推進事業における学園都市大学との連携、外国人留学生支援事業の留学生同士や日本人学生・地域との交流促進事業への参

加など、継続的に数多くの活動に取り組んできました。例年5月に開催される「学生天国」、12月に開催される「学生発表会」への参加、「学園都市大学いちょう塾」への科目提供など各事業に積極的に参加し取り組むことにより、八王子地域の活性化に協力するとともに学生が地域の方々との交流をとおして成長する場ともなっています。

また、平成23年度に実施された「震災復興支援事業」として総勢80名の学生ボランティアが被災地の岩手県に派遣されました。他大学の学生とともに本学からも学生が参加し、岩手県大槌町や陸前高田市などの仮設住宅で学習支援や被災者との交流が行われました。

こうしたさまざまな活動をとおり、大学としての地域貢献をすすめるとともに、学生への教育的・社会的経験の場を提供できるよう引き続き活動していきたいと考えています。



第4回大学コンソーシアム八王子学生発表会



フェアトレードカフェMARCHE



学生が地域の方々と交流

東京都羽村市との 包括連携協定に基づく活動

教育支援・ボランティアなど 連携事業続々

平成22年6月に締結した包括連携協定を基に、平成23年度には12事業、平成24年度には18事業の連携事業を推進してきました。その活動は、平日夜間急患センターへの医師派遣や連続講座、AED（自動体外式除細動器）等救命救急講座への講師派遣など継続的に実施されている事業に加え、平成23年度には「はむら夏まつり」の運営スタッフや市役所でのインターンシップ、平成24年度には小中学校で養護教育のインターンシップや環境フェスティバル、国民体育大会といったイベントへのボランティア派遣など年々増加してきました。また、年2回連携協議会を開催することとしており、羽村市と本学との連携事業の進捗状況や新規事業の開拓など、時期を逃さずに双方で確認・提案しあえる場を持っています。平成23・24年度は5月に羽村市役所、11月に本学を会場として協議会の場を持ち、事業の進捗状況や今後の事業の進め方を話し合うことができました。

平成23年度は平成22年度までの連携協議会をとおり検討されてきた事業が具体化され、それまでの継続事業に6事業が新設されました。主な新設事業として本学と羽村市のWebページに関連ページを設置することや羽村市が所有する「羽村市自然休暇村」の

本学関係者の利用促進、はむら夏まつり事務局スタッフとしての学生参加や3年生に対するキャリア教育インターンシップなどが実施されました。

平成24年度は18事業のうち4事業が新設事業であり、環境フェスティバルや国民体育大会などのイベント事業に学生がボランティア協力することも増えてきました。特に環境フェスティバルにおいては、約半年間、学生が企画の段階から関わり、市の方々の協力を得ながら当日の運営も担いました。また、これまでの英語教育スクールインターンシップに加え、看護養護教育についても新たに受け入れがスタートし、教員を目指す学生達にとって貴重な学びの場となっています。各種講座への講師派遣では、保健学部教員による健康フォーラム『保健と運動で手に入れるヘルシーライフ』での講演がきっかけとなり、サイクリング講座が開催され、サイクリング同好会の結成、活動につながっています。他にも文化講演会において医学部や外国語学部教員が講師として派遣されています。

今後も市と情報を密にとりながら、連携事業を進めていけるよう協力し関わりを深めていきたいと考えています。



環境フェスティバルボランティア



サイクリング講座



AED救命講座（羽村市立第一、第二、第三中学校）

秋田県湯沢市 秋の宮温泉郷との連携活動

まちづくり活動への参画

地域交流委員会では、平成24年1月23日、秋田県湯沢市「秋の宮温泉郷イメージアップ推進協議会」との間で『まちづくり・観光事業に関する連携協定』を締結しました。大学側からは跡見学長、古本地域交流委員長、井手外国語学部講師、黒田大学事務部長、齋藤八王子事務部長、安藤地域交流課長、推進協議会側からは菅会長、菊地事務局長、築瀬推進員の計9名（所属は当時）が出席し、協定書に調印をしました。この連携協定は、同温泉郷のまちづくりや観光事業に関して、双方協力して調査・研究を行ったり、新たな交流プログラムを実施したりしていくことを目的としたものです。

外国語学部の教員が観光まちづくりの講師として同地に招かれたことがきっかけで交流が深まり、地域内観光事業の運営補助を主とする交流活動（ゼミ合宿の実施やかだる雪まつりの運営支援等）を行ってきてい



かだる雪まつり



初めてのかまくら作り

ます。今回の協定締結に伴い今後はまちづくり全体にまで視野を広げ、高齢化問題や観光資源の発掘・発信など、秋の宮地域を取り巻くさまざまな課題について協力して研究等を行うこととしています。

平成24年8月には、新たなプロジェクトとして、秋田県立雄勝高等学校と本学学生との交流と、観光まちづくり調査を中心とした秋の宮温泉郷での「夏休み学生交流事業」を、外国語学部観光交流文化学科の学生5名が参加して、2泊3日で実施しました。市内で行われている「七夕絵どうろうまつり」を視察したり、雄勝高等学校の生徒と本学学生によるネイチャーゲームなどを通じた交流を行ったりしました。合わせて、雄勝大花火大会の会場設営、運営補助を行いました。現場での学びや地元高校生との交流は参加した学生たちにとって、大変貴重な体験となりました。

平成25年2月には継続して行われている「かだる雪まつり」に学生が参加しました。これは今回で5回目となるもので協定に基づく事業のひとつです。雪まつりの会場づくり、実施運営、片付けまで学生はスタッフとして関わらせていただきました。この活動をとおしてコミュニケーション力や問題発見・解決力の向上、チャレンジする勇気を養うことができました。

今後も秋の宮温泉郷との連携を推し進め、地域と本学の双方が高めあう関係を続けていきたいと考えています。



観光資源の視察調査

保健学部 公衆衛生学研究室・保健栄養学分野

災害時における ダイエットトリアージシステムの構築 —八王子市と福島市の大学生を中心とした調査研究—

指導教員名 長谷川 めぐみ
学生代表者 真田 祐子・橋爪 利加（健康福祉学科）

活動事業

〔概要〕

- 医療現場におけるトリアージシステム（緊急を要する対象者に順番をつける）を応用し、災害時の食糧供給システムプラン「ダイエットトリアージシステム」作成を目指す。
- その準備のため、参加学生たちが東日本大震災の被災地および準被災地住民への質問紙調査を行い、被災地における食環境調査を実施し、情報収集用にダイエットトリアージカードを試作した。

協力：福島県 桜の聖母短期大学食物学科 津田和加子先生（ほかゼミ生一同）

〔ねらい〕

- ダイエットトリアージシステム（優先度をつけた食料供給システム）の構築で、地域の災害時食糧供給システムを円滑に運営する。

〔成果〕

- ダイエットトリアージシステムにより、地域に災害時の食糧供給プランを提案できた。
- 被災地とのやりとりを行うなかで、被災地支援活動やボランティア活動を行う者が多く見受けられた。



杏林大学・長谷川ゼミの皆さん



桜の聖母短期大学・津田先生ゼミの皆さん

保健学部 母性看護・助産学 幼児の性教育グループ

保護者が幼児に対して
性教育を行うための支援

指導教員名 土屋 有利子・佐々木 裕子
学生代表者 平成23年度 堀家 文子（看護学科） 平成24年度 金子 千紘（看護学科）

活動事業

- [概要]
- 平成24年9月4日～10月27日、三鷹市近郊の8カ所の保育園と1カ所の児童養護施設において、4～5歳児とその保護者を対象に、「いのちのおはなし会」を実施した。
※平成23年は12カ所の保育園と1カ所の児童養護施設で実施
 - 会終了後、保護者と意見交換を行い、「子どもからの疑問」にどう答えるか等の資料を配付した。
- [ねらい]
- 生命の尊さや性の連帯性を理解するには、幼児期の教育が重要であることの理解を目的とする。
- [成果]
- 4～5歳期に、命や身体の話をするのが適していることがわかった。また、子どものみならず、親にとっても命や性について考えるよい機会となった等の感想が寄せられた。
 - 学生にとっても、性に対する考えを見つめ直す機会となり、この活動を通じて成長できたという意見があった。



三鷹市の保育園で行った「いのちのおはなし会」の様子（24年度の活動から）

平成23・24年度実績

NO.	行 事 名	実施期間	活 動 主 体
1	リウマチ膠原病教室：関節リウマチという病気を理解しましょう	年1回	医学部・病院
2	三鷹市膠原病検診	年1回	医学部・病院
3	三鷹武蔵野施設給食研究会 三鷹農業祭栄養展出展	通年	病院
4	多摩地区各保育園「いのちのおはなし会」の実施	通年	保健学部
5	車椅子陸上サークル「横浜ラストラダー」練習サポート	通年	保健学部
6	皮膚合同カンファレンス	年3回	地域医療機関・医学部・病院
7	多摩皮膚科専門医会	年6回	地域医療機関・医学部・病院
8	多摩アレルギー懇話会	年2回	地域医療機関・医学部・病院
9	三鷹キャンサーネット	年3回	地域医療機関・医学部・病院
10	三鷹・武蔵野・小金井排尿障害勉強会	年2回	地域医療機関・医学部・病院
11	三鷹・武蔵野認知症を考える会	年4回	地域医療機関・医学部・病院
12	ひよどり山中学校健康診断補助	4月	保健学部
13	「学生天国」HIV・AIDSに関する情報提供	5月	総合政策学部
14	介護技術ステップアップ講座 介護職員研修講座	7月	保健学部
15	多摩国体リハーサル大会救護所補助	8月	保健学部
16	横田基地日米友好祭運営ボランティア活動	8月	外国語学部・病院
17	多摩ウイルス感染症研究会	10月	地域医療機関・医学部・病院
18	八王子夢街道駅伝競走大会AED救護活動	2月	保健学部



健康分野での主な交流活動

保健学部 母子看護学・助産学教室

極低出生体重児の
育児支援（ぴあんず）

指導教員名 吉野 純

学生代表者 平成23年度 秦 悠太郎（救急救命学科） 平成24年度 大内 みのり（看護学科）

活動事業

〔概要〕

- 付属病院内のボランティア団体「ぴあんず」は、1800g未満で出生し、NICU*／GCU*を退院した子どもと家族を対象に、育児支援を行っている。
- 具体的には年に4回ほど、対象家族のため、専門家による講習や相談を実施し、その間、学生が子どもを預かり、遊びや授乳、昼寝援助を行った。

〔ねらい〕

- 対象家族には知識、情報の提供や心理的ケア、サポートを行い、子どもにとっては、親と離れて仲間と触れ合う時間を過ごす場とすることを目的とする。

〔成果〕

- 親にとっては日頃の子育ての悩みを共有したり、情報交換する場となり、子どもにとっては、社会性を育む機会となった。
- 学生にとっては、実際の子どもと触れ合い、接することで、実体験の中から子どもたちとの付き合い方を学ぶ貴重な機会となった。

* 1 NICU…新生児・未熟児集中治療管理室
* 2 GCU…新生児治療回復室



子どもを預かり、子どもと遊ぶことで
学生が学ぶことも多い
（24年度の活動から）

保健学部（母子看護・助産学教室、看護養護教育Ⅰ教室）

妊娠期からの
多胎育児支援（多摩多胎ネット）

指導教員名 佐藤喜美子・太田ひろみ・佐々木裕子・鈴木朋子（協力：杏林大学病院 助産師）

学生代表者 平成23年度 橋本 舞（看護学科） 平成24年度 納本 佳乃子（看護学科）

活動事業

〔概要〕

- 多胎妊娠中の妊婦と夫を対象に、①多胎妊娠と出産（産科医師の話）、②多胎妊娠とふたご育児の実際（先輩ママ・パパの体験談）、③多胎妊娠中の生活と入院生活（助産師の話）、④ふたごのいる生活と育児グッズ（先輩ママ・パパとグループワーク）をテーマに、多胎育児準備教室を開催し、妊娠期からの多胎育児支援について考えた。
- ふたご育児中の母親とその家族を対象に、交流会やピアサポート事業を開催した。

〔ねらい〕

- 医師や助産師、同境遇の方との意見交換の場をつくることで、地域の多胎妊娠中の妊婦と夫の不安を軽減することを目的とする。

〔成果〕

- 多胎妊娠・出産・育児に関する情報として、実際に産科医師や助産師の話を聞くことで、具体的な知識を得、不安の緩和につながった。
- 先輩ママ・パパの体験談やグループワークを通して、ふたご育児の大変さと喜びをイメージし、ふたごの親になる準備となった。
- 学生にとっては、子どもと触れ合い、子どもやふたごを理解する貴重な学習の場となった。



助産師さんの話を聞く参加者



貴重な意見交換の場と好評



学生による保育の様子

総合政策学部 劉迪ゼミナール

無料中国語講座を通じた留学生と
八王子市民間との信頼関係の構築

指導教員名 劉 迪
学生代表者 郭 鑫（企業経営学科）

活動事業

〔概要〕

- 八王子生涯学習センターにおいて、本学の中国人学生が講師となり、受講生である10代から70代までの八王子市民の皆さんに、中国語の発音と日常会話の練習を行った。
- 講義は双方向的な交流時間を設け、日中言語の異同等について意見交換も行った。

〔ねらい〕

- 講座を通じて、中国人学生と市民間で異文化交流を行うことを目的とする。

〔成果〕

- 中国語だけではなく、中国文化についての知識も加わった講義だったため、参加者から大変いい勉強になった等の感想が寄せられた。
- 交流時間を設けたことで、日中間の言語や文化の異同等について、学生・市民、双方の認識が深まったとの声も多かった。
- 講座期間中、『The Japan Journal』（中国語版『日本総術』）の記者が取材に訪れた。



さまざまな年代の皆さんが無料中国語講座に参加し、留学生と交流を持った

平成23・24年度実績

NO.	行 事 名	実施期間	活 動 主 体
1	羽村市立武蔵野・栄小学校英語教育インターンシップ	通年	外国語学部
2	極低出生体重児支援「ぴあんず」保育ボランティア	年4回	保健学部
3	双子みつごの会「多摩多胎ネット」保育ボランティア	年4回	保健学部
4	羽村市立（第一・第二・第三）中学校救命・AED講習	年1回	保健学部
5	八王子市立加住小中学校教職員に対する救命・AED講習	年1回	保健学部
6	南多摩医療と介護と地域をつなぐ会	月1回	保健学部
7	八王子市在住の介護支援専門員の研修会	通年	保健学部
8	南多摩医療と介護と地域をつなぐ会第8回フォーラム	3/16～17	保健学部
9	三鷹市立保育園保健部会研修	年1回	医学部・病院
10	八王子市立片倉台小学校救命・AED教員講習	6月	保健学部
11	加住小中学校サタデースクール講師	7月・8月	八王子キャンパス
12	第2回学生が育つ教育FD・SDフォーラム	8月	外国語学部
13	八王子市立第四中学校救命・AED教員講習	9月	保健学部
14	昭島市立瑞雲中学校英語指導学生ボランティア	9月～毎週1回	外国語学部
15	八王子市立第三中学校大学訪問	11月	八王子キャンパス
16	日本語支援ボランティア入門講座	11月・12月	外国語学部
17	大学コンソーシアム八王子学生発表会	12月	総合政策学部
18	留学生日本語弁論大会	12月	外国語学部
19	秋の宮温泉郷かだる雪まつり	2月	外国語学部
20	八王子市立ひよどり山中学校職場体験受け入れ	3月	八王子キャンパス



教育分野での主な交流活動

外国語学部 野口洋平ゼミナール

多摩地域の観光・ホスピタリティ産業
における環境対策

指導教員名 野口 洋平
学生代表者 小村 梓彩（応用コミュニケーション学科）

活動事業

〔概要〕

- 多摩地域の観光・ホスピタリティ施設において、観光客が快適に観光するため必要な環境対策は何か、調査を行った。
- 武蔵五日市駅周辺、都立小峰公園、コテージ森林村などで調査を実施し、環境保護と観光の観点から問題点の洗い出しと改善点を探った。

〔ねらい〕

- 多摩地域の観光施設において、環境保護を行いながら観光客を誘致するにはどのような対策が必要か考えることを目的とする。

〔成果〕

- 観光資源の活用と環境の保護という二律背反的なテーマの中に、両立の可能性を探ることができた。
- 学生にとっては、実際にフィールドワークを行うことで、現地調査の重要性を知り、地域貢献のきっかけにすることができた。



ビジターセンター解説員から話を聞く



都立小峰公園でのフィールドワーク



堆肥に利用する落葉

外国語学部 坂本ロビンゼミナール

外国人観光客に向けた
多摩地域の観光資源の紹介

指導教員名 坂本 ロビン
学生代表者 山岸 大介（英語学科）

活動事業

〔概要〕

- 多摩地域の観光エリアを紹介するホームページを英文で制作し、外国人観光客に向けて多摩エリアの魅力を発信した。
- 多摩地域の観光エリアは、夏や紅葉期など、季節によって魅力が異なるため、学生が季節ごとに自ら取材した。外国人になじみが薄い日本の文化・風習についても調べて紹介した。

〔ねらい〕

- 高尾山をはじめ、広域にまたがる多摩地域の観光エリアに、より多くの外国人観光客を誘致することを目的とする。

〔成果〕

- 既存の外国人観光客向けホームページは、有名観光地が主となっているため、多摩の観光エリアを英文で紹介する試みは、あまり例がなく、外国人観光客誘致につながる試みとなった。
- 学生自らが現地取材し、英語でホームページを作成することにより、現地の方と交流する機会ができ、語学力のアップも図られた。



井の頭公園



高尾山

外国語学部 井手拓郎ゼミナール、観光基礎演習（井手クラス）

多摩地域における
環境に配慮した観光の実態調査

指導教員名 井手 拓郎
学生代表者 前山 彩乃（応用コミュニケーション学科）

活動事業

〔概要〕

- 自然環境に恵まれた多摩地域にとって観光資源は自然であり、これを保全しながら集客しなければならない。
- 観光と環境の関係について考えるため、都立小峰公園の自然解説員によるガイドウォーキングを体験し、その後公園管理者へのインタビューを行った。

〔ねらい〕

- 多摩地域における観光と環境のあり方について考える。

〔成果〕

- 今回のフィールドワークにより、観光振興と環境保全のため、自然解説員の役割の重要性、総合的な公園管理手法の必要性が明らかとなった。
- 学生にとっては、現地調査の必要性・重要性を認識でき、さらに多摩地域における自然観光の可能性を確認できた。



自然解説員とフィールドワーク



公園管理について話を聞く学生

総合政策学部 学生と地域をつなぐ会

学生と地域をつなぐ
仕組みづくりの試み

指導教員名 野山 修・高田 京子・島村 直幸
学生代表者 藤巻 将（総合政策学科）

活動事業

〔概要〕

- 大学周辺および学生が住んでいる地域を対象として、地域の実情と課題について学習し、学生が地域と係わる意義と方法について考察した。
- 本学学生と大学所在地の宮下町との交流活動の紹介から始まり、若松神社や宮下町公会堂などで、若松神社の氏子の活動、町会活動、高齢者福祉等について住民や関係機関から話を聞いた。また、旧加住中学校の校舎で始まった子どもと高齢者の交流活動のときに行うゲームを考案した。さらに、各学生が住んでいる地域の役所や町会責任者からのヒアリングを行った。

〔ねらい〕

- 防犯、防災、介護など、地域の様々な課題について、学生や大学がより積極的に関わる事が求められている。
- 地域の課題や実情を調べ、地域活動に参加することで、学生自らもまた地域社会の一員であることを理解することを目的とした。

〔成果〕

- 小学生時代にはお祭りに参加していた学生が多かったが、中学生になると学校や塾、クラブ活動などで、地域との関係が薄れてしまったことがわかった。
- 学生と町会の交流活動、学生と地域をつなぐツールとしての地域貨幣の長所と短所、地域自慢の例とその意義、町会活動の実態、世代間交流が行われていることなどを学生達は理解した。

- 最終日のアンケート結果によれば、学生が地域ともしっかりと関わりを持つべきと答えた数が76%を超え、今回の演習を通して、学生もまた地域社会の一部と考えるようになったことがわかった。
- さまざまな行事や地域活動への参加状況からみて、地域に関わる学生が少ないのは、関わる仕組みが整備されていないためで、その整備が今後の課題ということがわかった。

学際演習の受講者（17人）に対するアンケートの結果			
〔問1〕回答者の住居		〔問11〕住んでいる地域に愛着を感じますか	
好む	度数（%）	好む	度数（%）
実家	15（88.2）	はい	12（70.6）
下宿	2（11.8）	どちらかといえば「はい」	3（17.6）
		どちらかといえば「いいえ」	0
		いいえ	2（11.8）
〔問12〕住んでいる地域に自慢したいことがありますか		〔問13〕住んでいる地域についてどんな地域をもっと知りたいですか	
好む	度数（%）	好む	度数（%）
はい	5（29.4）	はい	8（47.1）
どちらかといえば「はい」	4（23.5）	どちらかといえば「はい」	3（17.6）
どちらかといえば「いいえ」	1（5.9）	どちらかといえば「いいえ」	1（5.9）
いいえ	6（35.3）	いいえ	5（29.4）
不明	1（5.9）		
〔問14〕住んでいる地域で地域のために何か貢献したいですか		〔問15〕自分が住んでいる地域で地域とのつながりを深めたいですか	
好む	度数（%）	好む	度数（%）
はい	6（35.3）	はい	10（58.8）
どちらかといえば「はい」	7（41.2）	どちらかといえば「はい」	3（17.6）
どちらかといえば「いいえ」	1（5.9）	どちらかといえば「いいえ」	1（5.9）
いいえ	3（17.6）	いいえ	3（17.6）
〔問21〕大学がある地域に愛着を感じますか		〔問22〕大学がある地域に自慢したいことがありますか	
好む	度数（%）	好む	度数（%）
はい	2（11.8）	はい	2（11.8）
どちらかといえば「はい」	5（29.4）	どちらかといえば「はい」	3（17.6）
どちらかといえば「いいえ」	1（5.9）	どちらかといえば「いいえ」	2（11.8）
いいえ	9（52.9）	いいえ	10（58.8）

活動後のアンケート結果

総合政策学部 北島研究会

八王子の
防災対策について

指導教員名 北島 勉
学生代表者 小澤 貴史（総合政策学科）

活動事業

〔概要〕

- 東日本大震災以降、防災対策の見直しが急がれている。そこで杏林大学八王子キャンパスの防災対策を考えるため、危険箇所のチェックを行い、近隣との関係を強化した。
- 具体的には、災害時をイメージして対応を考えるDIG*を取り入れた災害図上訓練を行い、さらに学内や町内で災害時にどう行動するかアンケートを行った。

〔ねらい〕

- 災害に対応するには、緻密な防災対策の策定と備蓄、近隣との協力体制が必要だということを、学生および教職員が認識することを目的とする。

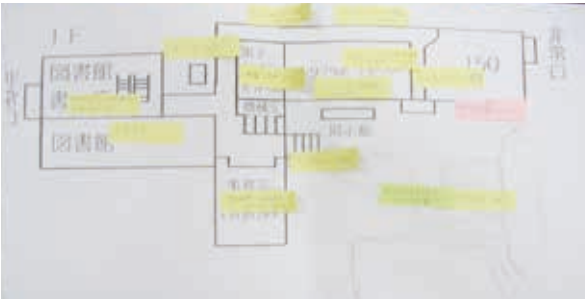
〔成果〕

- DIGを行うことにより、八王子キャンパスにおける危険箇所や改善点がわかり、新たな防災対策が必要だということがわかった。
- 学内や町内でのアンケートから、日頃から隣近所と交流することの重要性が認識され、防災情報の提供について行政側への要望も出てきた。

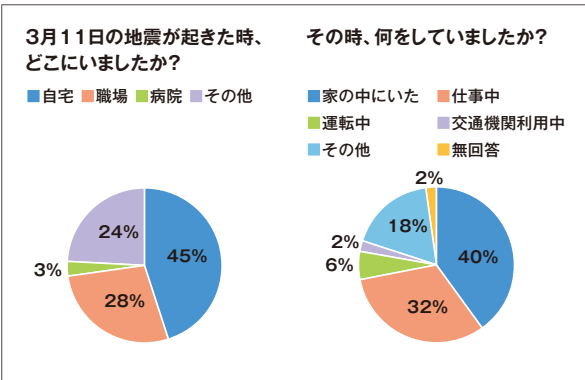
*DIG…Disaster（災害）、Imagination（想像力）、Game（ゲーム）の略。災害時をイメージし、参加者が地図上に書き込みをしながら、ゲーム感覚で行う防災図上訓練のこと。



災害図上訓練の様子



キャンパス内の危険箇所を調査



実施したアンケート結果例

総合政策学部 劉迪ゼミナール

地域住民との交流を通じた
防災意識の向上

指導教員名 劉 迪
学生代表者 郭 鑫（企業経営学科）

活動事業

〔概要〕

- 東日本大震災で得た教訓に、災害時は地域住民同士のネットワークが重要ということがある。一方、海外からの留学生は、地震に慣れておらず、防災意識も薄いため、災害時の対応に不安が残る。
- そこで、地域住民との防災訓練や座談会に参加することで、地域住民との交流を行い、留学生の防災についての意識向上を図った。

〔ねらい〕

- 日本に不慣れな海外からの留学生が、災害時、安全・確実に避難できるよう、近隣の地域住民と交流を持ち、ネットワークをつくっておくことを目的とする。
- 〔成果〕
- 地域の防災訓練に参加することで、留学生の防災意識、防災能力が高まり、地域住民とのネットワークを築くことができた。
 - 学生たちがまとめたレポートは、中国語メディア（留学生新聞）に掲載された。



「留学生新聞」（メディアチャイナ）に掲載されたレポート

保健学部ボランティアズ（保健学部臨床検査技術学科所属学生）

アロマグッズ製作による 八王子老人クラブ連合会との交流会

指導教員名 西村 伸大
学生代表者 鈴木 裕子（臨床検査技術学科）

活動事業

- 〔概要〕

 - 八王子老人クラブ連合会のみなさんを対象に、アロマテラピーに関する説明を行い、ボランティアメンバーとともに、アロマ石けん、アロマパウダー等、アロマグッズを製作した。
 - 学生たちと老人クラブの参加者が一緒にものを製作することで、活発な交流が図られた。
- 〔ねらい〕

 - 高齢化社会におけるコミュニケーションの必要性を知ることと、地域社会に貢献することを目的とする。
- 〔成果〕

 - 手先を使ってものを作る楽しさが参加者間で再確認でき、また、地域の高齢者と世代が異なる学生との交流が深められた。
 - 学生にとっても、世代間のコミュニケーションの大切さを知る良い機会となった。



八王子老人クラブ連合会の
みなさんとアロマグッズづくり



総合政策学部 加藤拓ゼミナール

立川駅周辺のサービス施設の 立地状況に関するフィールド調査

指導教員名 加藤 拓
学生代表者 柳生 啓貴（企業経営学科）

活動事業

- 〔概要〕

 - 立川駅周辺のサービス施設（トイレや郵便ポスト、駐車場等）の立地状況を確認するフィールドワークを行い、サービス施設の視認性に関する課題を見つけ、報告書を作成した。
 - サービスごとに昼夜間人口や事業所データ数を調べ、施設が十分なエリアとそうでないエリアに区分し、地図に落とし込んだ。
- 〔ねらい〕

 - 地域のサービス施設の問題点を調べ、明確化することで、市民や来街者の利便性を向上させることを目的とする。
- 〔成果〕

 - 郵便ポスト、公衆電話、公衆トイレ、駐輪場、コインパーキングなどのサービス施設ごとに、供給が十分なエリアと不十分なエリアがあること、また、存在はするものの一般市民が認識しにくい施設があることなどがわかり、利便性を向上させるための施策を立案する上での基礎的な資料となった。
 - 学生にとっては、インターネットで収集した情報だけではなく、自分の足と目を使ってデータを収集・加工する大切さを学習する機会となった。



サービス施設の立地状況を調査



フィールドワークで得た結果を分析

外国語学部 玉村禎郎ゼミナール

多摩の言語文化と歴史・風土・産業に
ついての総合的研究 ―多摩地域における地域活性化―

指導教員名 玉村 禎郎
学生代表者 高橋 美幸（中国語・日本語学科）

活動事業

〔概要〕

- 多摩地域における言語・風土・産業・歴史・伝統文化の理解を深めるために、実際に街を歩いて調査するなど、体験型学習を展開した。地域活性化の一環として、地域遺産の課題を明らかにすることに努めた。
- 多摩地域の中でも、地域遺産発掘に積極的に取り組んでいる青梅市を中心に、フィールドワークを展開した。

〔ねらい〕

- 多摩地域の歴史・文化を実際に調査し、多摩の魅力と課題を明らかにして、地域活性化の一助となることを主たる目的とした。

〔成果〕

- 多摩地域には独自の歴史や文化を紹介する施設が少ない。それらの施設を訪れ地域活性化を推進するうえでの今後の課題を明らかにした。
- 現地調査を通して、現在に伝わる地名・町名がかつての産業と密接に関わっていることを明らかにした。足で歩いて目で見ると体験型学習の成果を実感することができた。



地域遺産を活かした街づくり



地場産業の魅力も探った



ぜひ多摩エリアを訪れてください

外国語学部 野口洋平ゼミナール

まちづくりにおける
次世代間コミュニケーション手法の開発

指導教員名 野口 洋平
学生代表者 高子 瑞英（観光交流文化学科）

活動事業

〔概要〕

- 「全国観光学科学学生サミット」の第8回（長野県小布施町）と第9回（千葉県我孫子市）に参加し、他大学の学生や開催地の地域振興担当者と交流した。
- サミットに参加することで、学生間や地域関係者と交流し、活発な意見交換により地域活性化の方法を探った。
- サミット参加者で、開催地のフィールドワークを行った。

〔ねらい〕

- 地域振興における次世代＝若者同士のコミュニケーションの重要性を学ぶことを目的とする。

〔成果〕

- 学生サミット間でのフィールドワークやコミュニケーションを通して、開催地の地域振興担当者に、農業振興や観光振興の提案を行うことができた。
- 書籍を使って学ぶ座学だけではなく、外に出てフィールドワークを積極的に行うことで、より理解を深められることが実感できた。



第8回全国観光学科学学生サミット



グループに分かれて研究発表



フィールドワークの打ち合わせ

外国語学部 遠山菊夫ゼミナール

異文化の集い「話しをしよう！世界中の人々と」
～シャーロックホームズの冒険～

指導教員名 遠山 菊夫
学生代表者 深澤 愛莉（英語学科）

活動事業

〔概要〕

- 「地域社会の真の国際化」をテーマに、海外出身者の方をゲストスピーカーに招き、その出身国に関する異文化交流のイベントを、地元企業の協賛を受けて1年で全9回行った。
- 各国の情報を集め、講演内容を擦り合わせる準備段階から開催まで、イベントの企画・運営を学生たちがグループワークとして行った。

〔ねらい〕

- 八王子で地域貢献活動に取り組み、地域社会における異文化コミュニケーションの実践を目的とする。
- ゲストスピーカーの選定、交渉なども、すべて学生が英語で行うことで、実践的英語力の向上を目的とする。

〔成果〕

- 回数を重ねるごとに来場者が増え、また毎回イベントを楽しみに参加される市民の方々もあり、「八王子の真の国際化」への一歩を担うことができた。
- 平成24年11月には日本経済新聞社主催の「社会人基礎力グランプリ2013」関東大会に出場し、「異文化の集い」の企画・運営についてのプレゼンテーションを行い、地域奨励賞を受賞した。
- ゼミ生ひとりひとりが個々の役割を全うし、ひとつのチームとして取り組むことで、チームで働くことの意義も学ぶことができた。
- 英語のビジネスメール、英語による交渉術などゼミ生ひとりひとりの実践的英語力向上を図ることができた。



学生が直接ゲストスピーカーと交渉、講演時は通訳も



会場は八王子の英国式レストラン「シャーロックホームズ」



ゲストスピーカーが自分の出身国を紹介

平成23・24年度実績

NO.	行 事 名	実施期間	活 動 主 体
1	八王子市災害時支援ボランティア	通年	保健学部
2	多摩地域の管弦楽団コンサート	通年	外国語学部
3	日野市さかえまち児童館子育て応援ボランティア	通年	保健学部
4	加住ふれあいコミュニティ	通年	総合政策学部
5	外国人向け英語での多摩地区HP作成	通年	外国語学部
6	御岳山おみくじ英語化プロジェクト	通年	外国語学部
7	八王子野菜を使った漬物作り	年2回	八王子キャンパス
8	八王子宮下町民交流杏ジャム作り	6月	八王子キャンパス
9	宮下町会納涼盆踊り大会	7月	八王子キャンパス
10	秋の宮温泉郷夏休み観光イベント補助	8月	外国語学部
11	多摩地区中学野球大会運営補助	8月	八王子キャンパス
12	八王子まつり運営補助・山車の曳き子	8月	八王子キャンパス
13	若宮神社例大祭	9月	八王子キャンパス
14	八王子市主催 市民対象講義・施設見学	10月	八王子キャンパス
15	療養施設「北野ハピネスセンター」育児ボランティア	11月～	保健学部
16	八王子消防署ファイヤーフェスティバル運営ボランティア	11月	保健学部
17	羽村市環境フェスティバル運営補助	11月	外国語学部
18	医療法人財団 緑雲会多摩病院職員対象AED講習	11月	保健学部
19	八王子いちょう祭りイベント補助	11月	八王子キャンパス
20	コンソーシアム八王子学生発表会出場	12月	八王子キャンパス
21	日野の冬フェスタ イルミネーション出展	12月	八王子キャンパス
22	コンソーシアム八王子FD・SDシリーズセミナー開催	1月	八王子キャンパス
23	秋の宮温泉郷かだる雪まつり運営補助	2月	外国語学部
24	イタリア映画「ある海辺の詩人」試写会	2月	外国語学部
25	三鷹市「ご近所大学こんにちは！」シンポジウム	3月	外国語学部



地域活性化分野での主な交流活動

東日本大震災被災地支援・その他の交流活動

平成23・24年度実績

東日本大震災被災地支援

NO.	行 事 名	実施期間	活 動 主 体
1	宮城・岩手・福島 難民を助ける会 仮設住宅でのマッサージ・リハビリ活動	月1回	保健学部
2	東京都調布市 味の素スタジアム避難所ボランティア	4月～5月	外国語学部
3	福島県 JOCVリハビリテーションネットワーク 仮設住宅でのマッサージ・リハビリ活動	月2回	保健学部
4	「いわてGINGA-NETプロジェクト」、 「お茶っこサロン」 交流活動・こども学習支援	8月18日 ～22日	八王子キャンパス
5	岩手県陸前高田市 畑づくりボランティア	5 月	保健学部
6	岩手県七ヶ浜町 農地復活大作戦ボランティア	6 月	保健学部

その他

NO.	行 事 名	実施期間	活 動 主 体
1	吹奏楽団による近隣老人ホーム・介護施設 慰問演奏	通年	八王子キャンパス
2	八王子市立加住小中学校学習支援ボランティア	通年	保健学部
3	八王子市立陵南中学校学習支援ボランティア	通年	保健学部
4	福島県二本松市の仮設住宅での、マッサージと作業活動実施	月2回	保健学部
5	島田療育センターはちおうじ 子どもたちとの交流会	月3回	保健学部
6	八王子市立光明第七保育園育児ボランティア	毎週1回	保健学部
7	八王子市立第十小学校子ども教室ボランティア	毎週1回	保健学部
8	こどものうち「八栄寮」におけるボランティア	4/29～5/6	外国語学部
9	三鷹駅、吉祥寺駅周辺の清掃活動	年2回	総合政策学部
10	長野県諏訪市スワサイクルプロジェクト	8 月	外国語学部
11	とぶき育成園「園祭」運営補助	10月	保健学部
12	あきる野市老人ホーム戸倉ヴィラボランティア	10月～週2回	総合政策学部
13	八王子市立甲ノ原中学校養護教諭補助	10月～週2回	保健学部
14	八王子市立横川小学校養護教諭補助	11月～週1回	保健学部
15	小金井警察署員対象BLS・AED講習	12月	保健学部
16	市街地活性化策を探るための街頭アンケート	2 月	総合政策学部
17	長野県「諏訪元気プロジェクト」発掘大会	3 月	外国語学部



公開講座

杏林大学では、八王子学園都市大学いちょう塾への講座提供をはじめとして、三鷹キャンパス講堂・調布市文化会館「たづくり」・羽村市生涯学習センター「ゆとろぎ」などさまざまな会場で、地域の皆さまと学ぶ機会を展開しています。また、大学側からの一方的な提供だけではなく、地域の皆さまとの意見交換から内容を設定する講座も行っています。

本学ならではのユニークな講座が多くありますので、気軽にご参加ください。



1	地縁と地域力 ～明るい日本復興へのきずな創造～	外国語学部 名誉教授 熊谷 文枝
2	糖尿病性足病変について 足を失わないために	医 学 部 准教授 大浦 紀彦 (現 保健学部 教授)
3	身につけたいですね！ 役立つストレスマネジメント	保健学部 講 師 松井 知子
4	生活習慣病を予防しよう ～日々の食生活の注意点～	杏林大学病院 科 長 塚田 芳枝 栄 養 部
5	TPP交渉の展望と課題	総合政策学部 講 師 久野 新
6	バチカンの聖と俗 ～バチカンを通して世界を見る～	外国語学部 客員教授 上野 景文
7	認知症と向き合う	医 学 部 教 授 神崎 恒一
8	翻訳が成功する時 言葉はいかにして文化の壁を越えるのか	外国語学部 准教授 八木橋宏勇
9	終末期医療をめぐる法律問題	総合政策学部 教 授 橋本雄太郎
10	体を動かすということ ～自分の体と末永く仲良く暮らすために～	保健学部 准教授 石井 博之
11	感染制御のヒント プロの感染防御策	保健学部 教 授 小林 治
12	がんの話 がん薬物療法の進歩	医 学 部 教 授 古瀬 純司
13	国際政治の歴史と展望	総合政策学部 講 師 島村 直幸
14	国際貿易論2 ～やさしい日本貿易～	総合政策学部 教 授 小野田欣也
15	天草版平家物語 キリシタン資料の世界	外国語学部 教 授 玉村 禎郎

詳しくはWebをご覧ください。

杏林大学公開講座

検索



〒192-8508 東京都八王子市宮下町476
Tel : 042-691-8725 Fax : 042-691-3809
<http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/society/>
Mail : area@ks.kyorin-u.ac.jp